

認定心理士の会から

テーマに込めた想い

皆さまは認定心理士の会のイベントについてどのように感じておられるでしょうか。運営委員として新参者ではありますが、関東支部としてテーマを考える際に私なりに意識していることがあります。それは、多くの人が注目をするテーマのみならず、あまり注目はされないけれど、そのことで悩んでいた、困り感を抱えている人がいるであろうテーマにフォーカスを当てるといことです。もちろん一人でも多くの方に参加していただきたいという気持ちはありますので、最新のテーマであったり、注目度の高いテーマを取り上げることは大切だと考えています。それと同時に、そういったことは気にせずに、困り感を抱えている人の気持ちや和らいだり、当事者のみならず関わっている人たちが救われるようなテーマを取り上げることに意味があると感じています。心理学に関わるものとしては、ある意味当然のことかもしれませんが、あらためてその重要性を感じていますし、そのようなテーマを支部の先生方と考えることはとても楽しい時間です。

認定心理士の会で企画されているイベントには、それぞれの支部の先生方のさまざまな想いが込められています。そういった視点で、認定心理士の会のイベントにどんなテーマが取り上げられているのかを見ていただくと、興味が出てくることもあるかもしれません。今後も、さまざまなテーマでイベントが実施されていくことになりますが、ご自身にピンポイントのテーマのみならず、企画に込められた想いを想像していただきながら、いろいろなテーマの企画にご参加いただけるとうれしく思います。きっとよい学びの機会になるものと信じています。

(認定心理士の会運営委員会委員 本田周二)

若手の会から

現実はいつも「若手の」対話から生まれる

——わたしは心って、もっとホリスティックなものだと思うの。言葉でなんて表現しきれない、全体的で、直観的なものでしょ？

——いやいや、それじゃあなにも説明できてないよ。俺は心はもっとう、システムティックに説明できると思うんだ。

——はあ、わたしたちって、わかり合えないわね。

タイトルは、心理学に社会構成主義を取り込んだガーゲンの著書『現実はいつも対話から生まれる：社会構成主義入門』からのオマージュです。わたしたちは日々、他者と対話しながら生きています。雑談でもなく議論でもなく、そこで敢えて対話を選択するのは、両者が、両者なりの正しい“真実”を表そうとしているからでしょう。分断が多い世の中ですが、対話を経てうまくいけば、それぞれの真実は“わたしたちの真実”にめでたく昇華されます。しかし、これがなかなかうまくいかない。冒頭のように、両者はプライドを持って自分の信念をぶつけているわけで、そうそう簡単に折れたりはいしません。もしくは、既存の権威関係や同調圧力などで、そもそも相手にぶつけることすらできていないのかもしれない。

そんな現実を打破するためにオススメできるのが、わたしたち若手です。若手なので、まだまだ己の“真実”の牙城は脆く、ナラティブ変容の余地があります。また、幸か不幸かそれほど業績もなければ有名でもなく、ゆえに、若手同士は皆フラットな関係です。対等な立場で正直な対話を通して、学問として、あるいは研究環境としての心理学のリフレーミングに貢献できることと信じています。冒頭のやり取りには、実は、続きがありました。

——わたしたちって、わかり合えないわね。でも、すごく楽しい。“わたしたち”が納得できる、新しい真実を一緒に見つけていきましょう。

(若手の会幹事 阪口幸駿)